

# 再評価結果（平成20年度継続箇所）

担当課：都市・地域整備局街路課  
 担当課長名：松谷 春敏

事業名	さんようほんせんとく JR山陽本線等連続立体交差事業		くらしきえきふきん (倉敷駅付近)	事業区分	街路	事業主体	岡山県
起終点	J R山陽本線	白：倉敷市大島	至：倉敷市四十瀬			山陽本線	3.2km
	J R伯備線	白：倉敷市阿知	至：倉敷市酒津			延長 伯備線	2.2km
	水島臨海鉄道	白：倉敷市阿知	至：倉敷市安江			水島臨海	1.7km
事業概要 J R山陽本線等連続立体交差事業は、J R山陽本線の倉敷駅付近の約7.1kmにおいて鉄道を高架化することにより9箇所の踏切を除却し、都市内交通の円滑化を図るとともに分断された市街地の一体化による都市の活性化を図る事業である。							
H10年度着工準備		H 年度都市計画決定		H 年度用地着手		H 年度工事着手	
全体事業費		600 億円		事業進捗率		0% 供用済延長 0km	
踏切交通遮断量		141,000台時/日					
費用対効果 分析結果	B/C (事業全体) 1.7		総費用 (残事業/事業全体) 565/570億円 (事業費:564/569億円 維持管理費:0.53/0.53億円)		総便益 (残事業/事業全体) 955/955億円 (移動時間短縮便益:924/924億円 走行経費減少便益:29/29億円 交通事故減少便益:2.4/2.4億円)		基準年 平成19年
	(残事業) 1.7						
事業の効果等 ・鉄道により分断されている南北市街地の一体的発展と駅周辺の交通混雑の解消が図られる ・周辺まちづくり事業と一体となった都市基盤整備及び中心市街地の機能が強化される 他8項目に該当							
関係する地方公共団体等の意見 本事業を倉敷駅周辺のまちづくりにとって主要な事業と位置づけており、事業の推進を強く望んでいる。							
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等 ・平成17年度、水島臨海鉄道の新規着工準備箇所採択 ・倉敷駅周辺第2土地区画整理事業及び倉敷駅前東土地区画整理事業の都市計画決定							
事業の進捗状況、残事業の内容等 ・鉄道高架の概略設計終了 ・環境影響評価の現況調査終了							
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等 本事業は倉敷市が進める土地区画整理事業などと一体となって取り組む必要があるが、土地区画整理事業の地元調整が難航している。							
施設の構造や工法の変更等 今後、コスト縮減のため、高架橋のスパン割、地中梁構造（無または薄く）、軌道構造（軽く）を検討							
対応方針		事業継続					
対応方針決定の理由 本事業は、駅周辺のまちづくりにおいて主要な事業と位置付けられており、倉敷市が進める駅周辺まちづくり事業と一体となって取り組む必要がある。岡山県では、平成17年度に追加採択となった水島臨海鉄道を含め鉄道高架の概略設計を終えると同時に環境影響評価の現況調査を進めてきた。また、倉敷市は駅周辺まちづくり事業のうち、倉敷駅周辺第2及び倉敷駅前東土地区画整理事業について重点的に取り組んでいる。よって、駅周辺まちづくり事業の進捗状況等諸情勢を踏まえ、倉敷市と連携を図りながら、適切に事業を進めることとし、現計画を継続する。							
事業概要図							
岡山県							

※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。